

会 議 録

会議の名称	令和 6 年度 第 1 回那珂川市総合計画審議会		
開催日時	令和 6 年 11 月 19 日（火） 15：00 ～ 16：00	開催場所	市役所第 2 別館 大会議室 1・2・3 会議室
出席者	1. 委員 包清委員（九州大学名誉教授）、田北委員（九州大学 人間環境学研究室専任講師）、志水委員（小・中学校 PTA 連絡協議会）、池田委員（婦人会）、河野委員（社会福祉協議会）、長田委員（民生委員児童委員協議会）、飛永委員（筑紫農業協同組合）、添田委員（区長会）、山崎委員（区公民館連絡協議会）、熊谷委員（公募）、柴山委員（公募）、 末吉委員（公募）、吉永委員（公募） 2. 執行機関（事務局） 武末市長、小川行政経営課長、高木企画担当係長、長野主任主事		
配布資料	・ 資料 1 那珂川市総合計画審議会 委員名簿 ・ 資料 2 那珂川市総合計画審議会設置条例 ・ 資料 3 那珂川市総合計画後期基本計画基本方針 ・ 資料 4 総合計画前期基本計画評価分析資料 ・ 資料 5 令和 5 年度 住民意識アンケート満足度・重要度 一覧表（全体順位） ・ 資料 6 令和 5 年度 住民意識アンケート 満足度・重要度順位推移 ・ 参考資料 大綱別施策一覧 ・ 令和 6 年度第 2 回那珂川市総合計画審議会の日程調整について		
公開区分	開示 ・ 一部開示 ・ 非開示 (理由：情報公開条例第 9 条第 1 項第 号に該当)		
議題及び審議の内容			
1. 委嘱状交付 武末市長より、包清委員、田北委員、志水委員、池田委員、河野委員、長田委員、飛永委員、添田委員、山崎委員、熊谷委員、柴山委員、末吉委員、吉永委員へ委嘱状を交付。			
2. 市長あいさつ 市長 皆さんこんにちは。本来であれば、課長、部長が同席するはずだが、今日は昼から議会の委員会があるため、そちらに出席している。 もう皆さんご存知だと思うが、少しだけ説明をさせていただく。那珂川市の総合計画については、令和 3 年から令和 12 年の 10 年間となっており、現在は、令和 3 年から令和 7 年までの前期計画が実行されている。 この時期に、皆さんに委嘱状を交付したのは、前期計画と並走しながら、令和 6 年、7 年で後			

期計画をどのようにやっていくのかを審議していただくためである。

少しでも遅れると事業に支障がでてくるため、並走しながら検討をする。

この総合計画は、将来を目指す重要な行政の計画、いわゆる最上位の計画であるので、この計画がきちっと決まることによって、他の色々な計画につながってくるため、非常に重要なものである。

皆さんが今まで培ってきた色々な知識をもとに、意見を述べてもらい、その中でいいものを作っていただきたいと思っている。よろしくお願いいたします。

最後に、本当に忙しい中、これだけ多くの皆さんに出席いただき感謝申し上げます。

3. 各委員の紹介

各委員、事務局による紹介。

4. 会長・副会長選出

(1) 会長・副会長選出

河野委員の推薦、及び委員一同の賛同により、包清委員を会長に選出。

包清会長の指名、及び委員一同の賛同により、田北委員を副会長に選出。

(2) 会長・副会長あいさつ

会長

皆さんこんにちは。コロナも少し落ちついてきたが、総合計画前期計画策定のときは、まさにコロナ禍の中、いろんな政策について検討してきた。

前期計画での進捗状況を確認しながら、後期に向けて、よりよい発展の方向性を議論の結果として導くことができればと感じている。皆さんどうぞ意見をどんどん交わしていただき、未来の那珂川市の発展の方向について、いろいろ検討できればと思う。

ぜひよろしくお願い申し上げます。

副会長

先ほど市長から説明があったように、総合計画というのは、上位計画になる。

それを市民の皆さんとともに作り上げるというのが、総合計画の醍醐味だと思っている。

皆さんの意見を伺いながら一緒に作り上げていきたいと思っている。

5. 那珂川市総合計画後期基本計画について（諮問）

武末市長より、包清会長へ諮問。

6. 那珂川市総合計画審議会の役割

事務局

続きまして、6. 那珂川市総合計画審議会の役割について説明する。まず資料2、第2条に記載しているが、この総合計画審議会は、先程市長から会長へ行った諮問に応じ、行政運営の基本方針となる総合計画基本計画の策定について、調査・審議する機関となっている。

続いて、資料3を用いて今回の総合計画後期基本計画の基本方針について説明する。

まず、本市では令和 3 年に今後 10 年間のまちづくりの指針となる「那珂川市総合計画」を策定し、将来像に「笑顔で暮らせる自然都市なかがわ」を掲げ、市民全員が笑顔で安心して暮らせるまちづくりの実現に向け、5 つのまちづくりテーマを基に取組を推進してきた。

今回は、総合計画内の前期基本計画の部分について、計画期間が令和 7 年度で満了することに伴い、本年度から来年度の 2 カ年をかけて後期基本計画を策定することとなる。

計画の策定にあたっては、これまでの取組を継承・発展しつつ、前期基本計画の達成度や課題、住民アンケートの結果等を基に、目標指数の再設定等を行う。

策定の基本方針としては、前期基本計画を継承し、(1) 総合的かつ計画的な市政運営を図り、もってまちづくりの着実な推進に資する計画、(2) 社会経済情勢を踏まえた計画、(3) 市民の誰もが分かりやすい計画、(4) 市の特性を活かした計画とすることとしている。

なお、総合計画の全体の計画期間は 10 カ年だが、後期基本計画の計画期間は 5 カ年となる。

最後に、策定のスケジュールについて。本年度は、あと 2 回の会議を予定している。本資料には、2 回目の会議を 1 月中～下旬と記載しているが、スケジュールを変更し、2 月末の実施予定、

3 回目の会議は、3 月上旬～中旬と記載しているが、3 月中旬～下旬の開催予定となる。

来年度は、4 回開催を予定している。開催時期や回数については、審議の進行状況で変動するので、目安と考えて貰えればと思う。

説明は以上となる。続いて、7. 議事。議事の進行については、包清会長にお願いしたいと思う。

7. 議事

会長

ざっくりばらんに意見交換が出来ればと思う。今日は基本的に前期基本計画の進捗状況を確認し、共通理解を図るという形になるかと思う。

それでは、議事(1) 那珂川市総合計画前期基本計画の経過状況について、事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは資料 4「那珂川市総合計画前期基本計画 評価分析資料」及び、本日配布した参考資料「大綱別施策一覧」を基に説明する。まず、中身に入る前に現在の総合計画の概要を説明する。

1 ページ目に記載しているのが、現総合計画の体系図である。総合計画では、将来像を「笑顔で暮らせる自然都市なかがわ～これからも住み続けたい協働のまちを目指して～」と掲げ、将来像を構成するまちづくりテーマを 5 つ設定し、施策大綱の柱としてまとめている。

施策大綱 1 は、「支え合い、安心して暮らせるまちづくり」とし、コミュニティ、防災・防犯、高齢者福祉、地域福祉、健康・医療に関する施策を分類している。

施策大綱 2 は、「誰もが学び、育むまちづくり」とし、人権、子育て支援、学校教育、社会教育に関する施策を分類している。

施策大綱 3 は、「自然と調和した快適に暮らせるまちづくり」とし、都市基盤、道路交通、生活環境、行財政に関する施策を分類している。

施策大綱 4 は、「自然の豊かさを感じるまちづくり」とし、自然環境、環境保全、農林業に関する施策を分類している。

最後に、施策大綱 5 は、「地域の資源を活かした活力あふれるまちづくり」とし、商工業・観光、文化・芸術、交流に関する施策を分類している。

各施策に掲げる目標の達成状況や後期基本計画における目標値などについては、次回以降の会議で提案する予定である。

続いて、2 ページ。これから大綱別に住民ニーズと行政評価を基にした進捗状況を説明するがその前に 3 ページ以降の資料の見方について説明する。

まず上段の「住民ニーズ」については、令和 5 年度に 18 歳以上の市内在住者から無作為抽出された 2,000 人を対象に行った「住民意識アンケート」において、市民から評価された各施策の満足度と重要度についてクロス集計した結果をグラフ及び表にまとめている。

左のグラフ内の左上、オレンジ色に塗っている領域は、「重点改善分野」とし、満足度が低く、重要度が高い優先すべき施策が分類されている。

その右、水色に塗っている領域は、「重点維持分野」とし、満足度・重要度共に高く、今後も維持する施策が分類されている。重点維持分野の下は、「維持分野」とし、満足度は高いが、重要度は低い施策が分類されている。最後にその左は、「改善分野」とし、満足度も重要度低い施策が分類されている。赤い矢印の先にある表では、各分野に分類される取組について、「取組名」「満足度」「満足度順位」「重要度」「重要度順位」をまとめている。

グラフ内の数字は、先ほど配布した参考資料の表の番号と対応している。

続いて下段「現総合計画検証」については、総合計画に掲げる各施策について、取組の進捗状況などを内部会議で評価する「行政評価」の結果をまとめたものとなる。

達成度 A は、目標指標の達成度及び取組の必要性が高いかつ住民満足度が平均値の 3.01 以上と

なったもの、達成度 B は、目標指標の達成度及び取組の必要性は低い、住民満足度が平均 3.01 以上となったもの、達成度 C は、目標指標の達成度、取組の必要性が高いが、住民満足度が平均 3.01 未満となったもの、達成度 D は、目標指標の達成度、取組の達成度が低く、住民満足度も平均 3.01 未満となった取組となっている。円グラフの横にある表は、各大綱の施策別の達成度内訳数をまとめた表となる。

それでは、内容の説明に入る。3 ページについて、まず、施策大綱 1「支え合い、安心に暮らせるまちづくり」について。配布している総合計画冊子の 29 ページから 41 ページの施策となる。住民ニーズをみると、「⑥災害に備えた社会基盤の強靱化」「⑦防犯・交通安全対策の充実」「⑨社会保障制度の適正な運営」が重点改善分野となっている。

特に「⑥災害に備えた社会基盤の強靱化」については、アンケート実施時期が石川県の震災の直後であったこと、那珂川市内でも豪雨による被害が発生したことから、住民からの重要度が高まっていると推察される。

一方、「④消防体制の充実」「⑤防災体制の充実・強化」「⑦医療体制の充実/感染症対策の推進」については、重要度・満足度の両者ともに高いことから、引き続き施策に取り組んでいく必要がある。

続いて、行政評価の結果を見ていくと、達成度 C となった施策が半数以上となった。施策としての目標は達成しているものの、住民からの満足度が低くなった項目が多いため、住民に施策

の内容や成果が届いていない可能性が推察される。

次に、施策大綱 2「誰もが学び、育むまちづくり」について。配布している総合計画冊子の 43 ページから 50 ページの施策となる。

住民ニーズをみると、子育てや教育に関する関心の高まりから、「⑤子ども・子育て世帯への支援」「⑧学校教育の充実」「⑩教育環境の充実」への要望が高まっていると推察される。

一方、保育施設の充実や待機児童の解消などに取り組んだことにより「⑥保育サービスの充実」への満足度は高くなったと推察される。

続いて、行政評価の結果を見ていくと、達成度も高く、住民満足度も高い達成度 A の施策が 4 割近くある一方、達成度 D となった施策もあった。達成度 D の施策については、目標値の見直しや満足度向上のための取組に努める必要がある。

次に、施策大綱 3「自然と調和した快適に暮らせるまちづくり」について。配布している総合計画冊子の 51 ページから 59 ページの施策となる。

住民ニーズを見ると、「②道路などの整備」「③公共交通網の整備」「⑥安全で快適な住環境の創出」については、重要度順位は全体の上位を占めるものの、満足度は全体順位の低位に位置していることから、課題の整理を行い、より一層の施策の充実を図る必要がある。

一方、「④清潔な生活環境の形成」については、3 年連続満足度 1 位となっていることから、前期計画に引き続き施策に取り組んでいく。

続いて、行政評価の結果を見ていくと、達成度 C となった施策が半数以上となったことから、住民の皆さまに施策の内容や成果の周知を徹底する必要がある。

次に、施策大綱 4「自然の豊かさを感じるまちづくり」について。配布している総合計画冊子の 61 ページから 66 ページの施策となる。

住民ニーズを見ると、他の施策大綱と比べると「重点改善分野」に分類される施策はないものの、全体的に住民からの重要度が低くなっていた。住民からの重要度が低いものの、前期基本計画における重点施策に位置づけられている施策も含まれているため、市民への理解促進が課題となっている。

続いて、行政評価の結果を見ていくと、施策の達成度が 3 割ずつとなった。達成度 C となった「⑤農業の振興」及び「⑥林業の振興」については、住民意識アンケートにおける満足度及び重要度も低かったことから、取組内容の見直しなどにより、改善を図る必要がある。

次に、施策大綱 5「地域資源を活かした活力あふれるまちづくり」について。配布している総合計画冊子の 67 ページから 72 ページの施策となる。

住民ニーズを見ると、9 割の施策が重要度も満足度も低い「改善分野」に分類された。大綱 4 と同様に、前期基本計画における重点施策に位置付けられている施策も含まれていることから、住民への理解促進が課題である。

続いて、行政評価の結果を見ていくと、施策の 6 割が達成度 C となり、取組内容の見直しや周知方法の見直しなどにより、改善を図る必要がある。

最後に、前期基本計画の総合評価について。まず那珂川市が住みやすい、どちらかといえば住

みやすいと回答した割合は、全体の 91.5%、住み続けたい、どちらかといえば住み続けたいと回答した割合は、全体の 83.1%となり、多くの住民が那珂川市が住みやすく、今後も住み続けたいと回答していることがわかった。

また、行政評価全体を見てみると、約 5 割の施策が「達成度 C」となり、全体的に、施策の目標は達成しているものの、満足度が低い施策が多いため、住民への施策の周知や目標値の設定基準の妥当性について検討していく必要がある。

ここまでの、総合計画前期基本計画の評価となる。続いて、那珂川市の人口推移、将来人口についても説明する。9 ページについて、まず、一番上の緑の線が第 2 期総合戦略時の人口ビジョン、赤い線が那珂川市の人口推移、青い線が R2 年国立社会保障・人口問題研究所の推計となっている。現在の那珂川市の人口は国立社会保障・人口問題研究所とほぼ同じ数値となっており、右肩下がりとなっている。

続いて、10 ページについて。こちらは、那珂川市の自然増減数、社会増減数の推移を示したグラフ。青色の線の自然増減については、年々減少傾向であり、2022 年には初めてマイナスに転じた。緑色の線の社会増減については、2016 年、2019 年にプラスに転じたものの、それ以降はマイナスとなった。続いて、11 ページについて。こちらは、本市の合計特殊出生率の推移を示したもの。左の折れ線グラフが本市の合計特殊出生率で、年々減少傾向となっている。

右は、福岡都市圏の合計特殊出生率の一覧で、那珂川市は 16 市町中、10 位に位置していることが分かる。最後に、今まで説明した那珂川市の現在人口や自然増減・社会増減推移、合計特殊出生率の推移などから、那珂川市の将来人口について推計した。

12 ページについて。こちらは、総合計画の重点施策であり、那珂川市の地方創生に関する施策をまとめ、本年度策定予定の第 3 期まち・ひと・しごと創生-人口ビジョン・総合戦略において定めた、本市の人口推移の将来展望となる。青の点線が、R5 年社人研推計、オレンジの点線が第 1 期総合戦略時の推計、黄色の点線が第 2 期総合戦略時の推計、緑の実線が第 3 期総合戦略における推計となっている。

総合戦略における施策に取り組み、2030 年までに合計特殊出生率を 1.64、2035 年までに 1.71 に上昇させることで、社人研推計を上回る人口を維持していく推計となっている。人口は、2035 年をピークに右肩下がりとなり、2070 年には 42,640 人となる見込みである。このような人口の推移も捉えつつ、後期基本計画の施策について検討を進めていく。

以上が前期基本計画における評価分析資料の説明となる。

続いて、資料 5・6 の説明を行う。まず、資料 5 については、先ほどの説明の中にもでてきた、住民意識アンケートの満足度・重要度の全体順の一覧表となる。左に満足度、右に重要度を順位付けして並べている。こちらは、参考までにご覧いただければと思う。

続いて、資料 6 について。こちらは、住民意識アンケートの満足度・重要度順位の 3 ヶ年推移を表したグラフである。グラフの中の数字は、その年の順位を表している。例えば、左の上から 4 つ目「災害に備えた社会基盤の強靱化」について、R3 年度は 14 位、R4 年度は 5 位であったが、R5 年度には 39 位まで落ちていることがわかる。これは、R5 年度に大雨災害があり、那珂川市内でも河川の氾濫や土砂災害などが発生したため、市民の満足度が大きく下がったことが推察される。

このように、このグラフで、住民の満足度や重要度の移り変わりが見えてくるため、こういっ

たデータも参考にしながら、後期基本計画の策定をしていく。

以上で説明を終わる。

会長

それでは、事務局の説明に対して、疑問点・確認事項等あればお願いします。

委員

住民意識アンケートの対象の対象者や抽出方法を教えていただきたい。

事務局

市内在住の 18 歳以上の方を対象に、行政区の人口や年齢の割合を考慮し、システムをつかって、

無作為に 2,000 人を抽出している。

会長

人口構造や地区の年齢構造を考慮して実施し、32.6%の回収率も年齢構造に応じた回収ができた認識で良いか。

事務局

よい。

委員

この審議会は、計画をより良くしていくための意見を出す場だと考えていいか。

会長

今日は初回の会議ということで、前期計画をどのように発展させて、後期計画に繋げていくかについて、前期計画の達成状況を見ながら課題を共有し合いましょうということになっていこうかと思う。

委員

個人的なことだが、毎朝神社参拝とゴミ拾いという活動をしている。松木から現人神社までゴミ拾いをしながら行って、神社で参拝して帰るという活動を 2 年やっている。

この活動がとても素晴らしく、ぜひ地域の人とやりたいなと思っていたら、いいことしてますねと声をかけて貰い、日曜だけでも参加させてほしいと、3~4 人は日曜日に一緒にやっている。この活動の何がいいかという、朝 5 時半とか 6 時なので、朝日が昇っていくのが見える。

また、毎日行っている、稲の成長度合いも見え、那珂川市の素晴らしい景色を見ながら活動ができる。ゴミ拾いをする事で地域が綺麗になることも素晴らしいが、地域の人との交流もできて、自分がいいことをしているという自己肯定感も上がっていく。

何かお金を使わなくとも、みんなの美意識が上がっていくような活動を、地域活動の一つのプログラムとしてやってはどうかと常々思っている。このような活動で、子どもも高齢者も一緒に活動すれば、交流の場が生まれるのではないかと思う。

会長

今、いただいた意見は施策大綱 1 の 1 番最初の 1 番大事なところに関わってくるかと思う。市民による地域力を発揮できる協働社会を推進する、そこからプラス色々な喜びが生まれるということで施策大綱にも関わる効果が期待できる。

こういった活動を実際に一般社会に広げていくためには、どのようなことをすればいいかなど、その辺り、行政としてできることや市民からの申し出があって市民を支援することなど、またご意見いただければと思う。

事務局

先ほどの質問に少し補足をさせていただく。皆さんに配布している総合計画の冊子 2 ページをご覧いただきたい。この冊子が前期の計画となっている。今回も引き続き委員になっていただいている方もいるが、皆さんと一緒に作り上げた計画となっている。

こちらの 2 ページ、左上の図が分かりやすいかと思うが、市長の挨拶にもあったとおり、那珂川市総合計画というのは、基本的には 10 年間の計画となっている。

この三角のピラミッドの 1 番上、基本構想というものが 10 年間継続して実施するものとなつて

いる。その下の部分が、今回策定する基本計画となっており、前期基本計画が 5 ヶ年で、令和 3 年度から令和 7 年度で、現在は前期計画がスタートして 3 年しかたっていない。

そういった中で、前期計画の振り返りをしながら、次回の基本計画の 5 年間、令和 8 年度から令和 12 年度までの 5 年間の計画を今回皆さんと一緒に作り上げていこうというのが今回の審議

会となっている。

この基本計画が何かというと、冊子の 19 ページから 72 ページまでに書かれているのが、前期基本計画の施策大綱 1 から施策大綱 5 までのさまざまな取組となっている。

こちらが前期基本計画になるため、この中身を今回改めて具体的に作っていくことになるが、こちらについては、第 2 回以降の審議会の中で、具体的に一つずつ皆さんと協議しながら決めていくことになる。

会長

この計画は、市民の代表である議会の決定が必要な唯一の計画で、議会との契約書のようなものであるため、行政最上位の計画という位置付けになる。

本日は、先ほどの見直しのポイントと、現状について報告いただいたが、もともとの総合計画の方針というのは、この冊子に全て書かれているので後ほど目を通してもらいたい。

次の 5 年間に向けて、目標を達成できそうか等について、今後の審議会で施策大綱 1 から 5、一つずつ議論していくこととなる。

今日は疑問に思った点、冊子に書いてあることでも何でもいいので質問いただければと思う。

委員

一番興味深いのは、住民意識アンケートの社会基盤の強靱化。令和 3 年度、令和 4 年度は非常に市民も満足していたが、去年の 7 月、豪雨により自分の家の前でも越水が起きた。水の恐怖は本当に恐ろしいものである。こういった災害が多発している時代が住民意識アンケートには

はっきり出ている。

最近雨の降り方も尋常じゃなくなっていて、今までは満足できていたことが、急に不安に変わっていくこともある。那珂川市は市の南北に川が流れており、那珂川市の自然環境をつくるうえでとても大切なものだが、裏を返せば大水害の危険と背中合わせだということも言える。去年7月たまたま越水が起きた。これを受けて、いきなり満足度は下がり、重要度は上がっている。なかなかシビアな結果だと思う。

会長

人は目の前の危険に対して非常に敏感であるが、2～3年するとまた順位が変わってきたりするものである。総合計画は、長期的な計画であるので、人々の意識の高い、低いに関わらず、やらなければいけないこともある。

人々に継続して高い関心を持ち続けて貰わなければならない項目もあるかと思う。例えば防災に関しても、高い関心を持ち続けてもらうためにはどうすればよいか、ということも考えていく必要があるかもしれない。

委員

先ほどの社会基盤の強靱化の満足度が大きく下がった要因として、五ヶ山ダムができて、これで那珂川市は大丈夫だと安心感をもっていたのに、去年越水をしてしまって、不安に思ったということが、市民の率直な感想ではないかと思う。

会長

越水による氾濫と内水による氾濫と水害にも二つの考え方があり、福岡市等は内水氾濫。那珂川は、上流から急激に水が流れ込んでくることによる越水ということになる。その辺りも踏まえながらどういう仕組みでどのように防ぐのか、どのように逃げるべきかなどという話になるかと思う。また、水害の兆候をどのように知るべきかということも必要になるだろう。

その中で、行政として限られた資源をどういう順番で割り当てていくことが、効果を発揮できるのかということを総合計画の施策の中で具体的に議論いただく。

基本施策として、スペック評価なのか、達成度評価なのか、次に新しい目標値を掲げなければならないのか、その辺りの見直しについてもいろいろ議論を頂きたいと思う。

委員

今後、施策の進捗状況に関するデータなどは出てくるのか。

事務局

第2回目以降で、施策大綱別に目標値の達成状況について説明する予定である。

委員

前回の計画ができた時から現在まで、いろいろな法律が変わったり、新しい法律が出来たりしている。その辺りの整合性みたいなものを次期計画に入れていかなければならないと思う。

例えば、こどもの権利条例は2、3年前にできているが、具体的にこの施策の中にどのような形で反映するかが今は良く見えない。そこらへんは今後の課題になるかと思う。

また、SDGsなどもこの冊子には載っている。こういうことも含めて、今後かなり大変な作業にはなと思うが、その辺りの軌道修正も含めて検討していかなければならない。

会長

SDGs やこどもの権利など、いろいろなことがやっと言葉にして議論されるような時代を迎えた

ということだろうと思う。そういったことへの対応について、今回の総合計画の見直しの中ではどこまで反映させることが出来そうなのか。全く新しい基本方針を一から作ってとはならないと思うので、その辺りも事務局から補足で説明いただきたい。

事務局

総合計画は最上位の計画となるため、その他の計画は関連のあるものになってくる。総合計画冊子の2ページにもその他の計画との関連を記載している。

この計画を策定したのが令和2年度となるので、それ以降に出来上がったこどもの権利条例や部落差別解消推進法など、そういったものもしっかりと踏まえながら、各施策に反映していきながら、作っていくものとなるため、担当課にも確認しながら進めていきたい。

会長

SDGs のまちづくりなども含めて、数値目標の見直しを次回以降やっていくことになっていく。また、新たにGXやDXなど新しいキーワードもでてきている。そういったことを、踏まえながら現在の総合計画の手直しについて議論いただければと思う。

委員

那珂川市は子どもがどんどん少なくなっている。那珂川市で子育てをしたいと思う若者を呼び込むとか、子育てが楽しいとかいうことを知ってもらう必要がある。子育てにはお金がかかる、子育ては大変だということで敬遠して、子どもを1人しか作らないとなると、どんどん人口は減っていく。

だから、どうすれば地域と子育て世帯が連携して子育てをみんなで楽しくやりましょうというような体制作りができるかずっと考えている。

仕事でカウンセラーをやっていると、子育て中のお母さん方の悩みは、どんどん中に閉じこもってしまい、苦しさを表にだせないように感じる。だから、それを共有できる場所が地域があればいいのかなとすごく感じる。ハード面ではなく、そういったメンタル的なサポートまで行き届いたような施策だとかがあればうれしく思う。

会長

子どもをたくさん育てようと思う一方、子育ての苦しさをどこに吐き出せばいいんだと思っている人も多いかと思う。子育ては楽しいよと思ってもらうための支援の枠組みなどが必要かと思う。

委員

子育てするには、那珂川に行けば自然もいっぱいやさしいし、子育てしやすいということだったりアピールできたらいい。那珂川市は都会と田舎のいいところがある気がするので、そういったことをアピールできれば人が増えるのではないと思う。

会長

地域の子どもを地域で育てようという理念的なチャレンジが必要かと思う。

子育てしている世帯にとって実感として受け止められないなどの現状があるのかもしれない。

委員

視察で児童養護施設等に行った際に、ここに子どもたちは守られていたのだ、という意識に変わった。逆に守られずに、虐待されて亡くなっていく人が裏側にいっぱいいることも、視察して初めてわかった。やはり、実際に入ってみないと、その背景には分からないことがたくさんある。子育てに関するいろんな情報に対して、本当にそうなのかという疑問をもつ視点が必要。

自分はアウトプットができるほうだが、家の中にこもって、スマホを与えっ放しになってコミュニケーションが取れていないという現状もあり危惧している。

会長

子育て支援に関する話は、大綱 2 に当てはまる。また、大綱 2 の中で詳しい議論ができたと思う。

委員

評価分析資料の 10 ページについて。自然増減と社会増減が何を表すのか、また 0 は何を基準にしているのか。

事務局

自然増減は、市内で生まれた人の人数と市内で亡くなった人の人数の差を表している。

例えば、2015 年の 168 と書かれているところは、亡くなった人より、生まれた人の人が多いことを表している。逆にマイナスになっているところは、生まれた人より亡くなった人の方が多いことを表している。

社会増減については、那珂川市内に転入した人と市外へ転出した人の差を表している。マイナスになっているところは、那珂川市外へ出て行った人が多い、プラスになっているところは、市内へ転入してきた人が多いということになる。

近年は、市外へ行く人数が多く、市内で子どもが産まれる人数が少なくなっている。

出生率の低下については、那珂川市だけの問題ではなく、周辺自治体でもマイナスになっているところが多い。しかしながら、那珂川市は周りと比べて市外へ出て行く人の数が少し多いという現状がある。

那珂川市の魅力をいかに市外だけではなく、市内に住んでいる人がここに住み続けたいと思いつけられるような施策をできるか、那珂川市のもっとこういうことを PR できたらいいよねと

か

そういった話を審議会の中でいろいろお話しが聞けたらと思う。

会長

ここでいう自然増減・社会増減は住民基本台帳ベースか、住民登録外も入っているのか。

事務局

住民基本台帳ベースである。

委員

分かればいいが、新幹線は博多駅に8分で着く。博多駅に通勤・通学する人は100%が新幹線を使うと思う。天神に通勤・通学する人は、バスで大橋まで行って電車で天神に行く人が多いのか、それとも新幹線で博多駅に行って地下鉄で天神に行っているのか。

以前たまたま8時半くらいのバスに乗って天神まで行ったが1時間近くかかった。那珂川市に住む会社員の人だったらどちらを選択しているのか知りたい。

事務局

今、そのようなデータがあるかは思いつかないため少し調べてみる。

会長

最近ビックデータが一般公開されて、RESAS だとか携帯電話のGPSデータをベースにしたデータとかがあるかと思う。コロナ全盛期の時は、携帯電話のGPSを基にどこに人が滞留しているかの情報とかが出ていた。交通量調査やJRの乗降者の増減がどうなっているか等からも参

考になることがあるかと思う。

委員

もしかしたら、博多駅周辺に通っている人たちが、意外と8分で博多駅に行けることを知らないかもしれない。

会長

若い人から見て、ここに住んでみようと思わないと交通状況を調べたりしない。最初の動機付けをいかに行えるかについても今後具体的施策の中で議論できたらと思う。

委員

先日博多南駅を利用した時、8時には周辺の駐車場はもう満車になる。昼頃とかに行っても満車である。また、日曜日とかに利用するときもいっぱいである。

周辺にスーパーはあるが、それはスーパー専用の駐車場なので、そういった駐車場を活用できるようにしてもらえるといい。

会長

公共交通の乗継について、そういった乗継しやすい仕組み作り、交通環境の支援ということに繋がってくる。

シカゴの町は、水上交通が盛んだった町であとから自動車社会を迎えたため、大きな幹線道路と水運の間に巨大な立体駐車場ができたりしている。ハリウッド映画のカーアクションで有名になったりしている。

那珂川市でいえば、博多南駅周辺、それから再開発が期待されている西鉄バス営業所辺りとのネットワークの考え方についても、総合計画での謳い方が、言葉が限られてくるかと思う。表現の工夫も含めて議論できればと思う。

委員

自分は鉄道がすごく好きなのではないが、新幹線がずらっと並んでいるのをみるとすごく圧巻で写真を撮りたくなる。こういった風景や 330 円で新幹線に乗れるということを全国に PR する。330 円で新幹線に乗れるというだけで食いつきが良し、こんな短い距離で新幹線に乗れるということに対してもいいリアクションが返ってくる。これは財産である。

年に 1 回車両基地の開放があっているが、年に 1 回とは言わず、半年に 1 回とか 3 ヶ月に 1 回とか開放して、新幹線のまちでもある那珂川を広げていけばいいのではないか。

車両基地のイベントは毎回すごい人数が参加して、周辺駐車場は駐車しないでくださいとたくさん書いてある。逆にウェルカム、どうぞここに駐車場確保しているから停めてくださいというくらい打ち出したらどうか。

会長

周辺市町村との連携という話になってくるかと思う。総合計画の中で、周辺市町村との連携についてどのような表現をしていくかについて、その辺りもまた知恵を頂ければと思っている。今回リニューアルされたミリカローデン那珂川は、南区の人は比較的よく使っている。自分も子育て世帯の頃はよく使った。改修されてますます魅力的になった。

那珂川市として周辺市町村の人を引き付ける拠点がなにかという話である。その辺りも踏まえた基本施策の書き方、数値目標の見直し等も議論していきたい。

委員

五ヶ山の方から県道のバイパスが出来るのか。

事務局

中ノ島公園から少し先、南畑ダムあたりまでのバイパス化が計画されている。

既に動き出してはいるが、計画期間としては 10 年程度ではないかと聞いている。

委員

国道とは別に作るのか。

事務局

現道を広げるとかではなく別に作る。

会長

その辺りも踏まえた時に、例えば施策大綱の4や5番の一部、中には達成目標の見直し等が必要になるものも出てくるかもしれない。そういった周辺の計画事業なども質問などが出たら確認していただきたい。

委員

裂田溝がすごく歴史的で貴重なものだというのがあまり那珂川市内では知られていないというのはもったいないと思う。授業の一環で学んだ記憶もない。ここに育っているながら、貴重な歴史的資料を知る機会がないのはもったいない。そういったものに触れ合う機会をアピールするなどいいのではないかなと思う。

会長

現人神社のアオバズクをみて裂田溝の周辺を散歩するなどいいルートかなと思う。ただ、裂田溝あたりは、車両通行も多く、田んぼも多く営農者の作業車が通ったりする場所でもある。その辺りも踏まえながら、歴史環境や文化環境の利用の仕方や総合計画として示せる方向性について、また、個別計画でこういった方向性で検討すべきかなど議論できるかなと思う。

委員

那珂川は、自然と歴史のまちでうたっている。歴史に関しては裂田溝もだが、安徳台もあるが表には上がってきていない。安徳台は発掘作業も行われたが全部埋められている。諸説あるが大宰府政庁跡よりもっと大きいのではないかなと言う人もいる。地権者の問題などいろいろあって、発掘は全然進んでいない。歴史公園にすれば吉野ヶ里に匹敵すると言っている人もいる。

会長

安徳台は県の文化財か、国の文化財か。

事務局

国史跡である。

会長

国であれば、文化庁あたりとの連携なども話にでてくる。省庁間の連携辺りも踏まえて意見交換ができればと思う。

委員

裂田溝は日本最古の用水路と聞いた。散策路は風情がある。この間のライトアップもいったが、もう少し早い時期にしないと寒いとは思った。

あと、安徳台と安徳大塚古墳がすごいといわれても、安徳大塚古墳は実際見に行くとい入れない。見に行ったとしても立派な丘があるだけなので、例えば福岡市の人が、今日はみんなでドライブがてら安徳台にいつてみようか！とはならない。ただ、そこにあるだけでは意味がない。そ

の辺がやはり那珂川市としての一つの大きな課題かもしれない。

会長

那珂川市は要素がいっぱいあるが、駐車場がなかったり、滞留する場所がなかったりして寄り付けない。総合計画でこういったものを作りたいというのは書きにくいので、そういった要素の有効活用のような表現にはなるが、具体的な有効活用の方策が見えないところもあるので、進捗状況のチェックの仕方や表現の仕方などがこれから検討が必要なことだと思う。

委員

新幹線車両基地を開放すると家族連れがたくさんくる。車両基地を堪能して、面白かったね、さあちょっと食事をしようか、と思っても周辺にあまり店がない。だから博多に帰って食べる。

委員

せっかく来てもらってもみんなお金を落とさずに帰ってしまう。

そこに循環を生み出すために、那珂川の名産品が並ぶ施設とかが必要かと思う。

会長

総合計画は、地元の方の生活改善ということで、今は「笑顔で暮らせる自然都市なかがわ」となっているが、「笑顔で暮らせて人を魅了する」など、住んでいる人の暮らしも考えながら、人を惹きつけるような方策を少し持ち込むことを検討してもいいかもしれない。

今回はマイナーチェンジなので、そういったことを念頭に置きながら、少しチェック項目なり、表現の仕方について見直しをかけていければと思う。

委員

提案であるが、安徳という地名の由来は安徳天皇と聞いている。安徳天皇は、最終的に下関で入水自殺をしている。そういったヒストリーを引き下げて、過去に那珂川と下関でコラボしたミュージカルがあった。そういった歴史的な物語を演劇やミュージカルなどで学べるのではないかな。安徳の由来ってこういうことだったのだ、そして安徳小がここにあるのだということが分かったら面白くなるのではないかな。

今に生きている私たちと過去の歴史が繋がり、PRにも繋がるのではないかな。

会長

大綱5あたりの議論になってくるかと思うが、魅力化が課題かと思う。その辺りについてもまた今後ご意見いただけたらと思う。

委員

住民意識アンケートの設問について、次回の会議でもいいので教えていただきたい。

事務局

次回の会議で、アンケートのサンプルを配布する。

会長

それでは、他に意見等ないか。なければこれで議事を終了する。

8. その他

事務局

それでは最後にその他について。まず、行政経営課長から挨拶をいただく。

【行政経営課長あいさつ】

それでは、皆さんの机上に配布していた第2回審議会の日程調整表について説明する。まだ、かなり先の日程のため予定が分からない方も居るかもしれないが、本日日程を回答いただける場合は、後ほど事務局へ提出してほしい。

それでは以上で第1回総合計画審議会を終了する。